

シリーズ

“キラリ企業”の現場から 第9回

当公社のさまざまな事業を活用しながら経営に取り組む企業を紹介する“キラリ企業の現場から”。第9回は『高精度タッチセンサ』というユニークな製品で業績を伸ばす(株)メトロールを訪問し、専務の松橋卓司氏に話を聞いた。同社は当公社の取引情報の提供、各種研修事業を長年にわたり幅広く利用され、最近では製品開発を進める上で必要となる知的財産に関する弁理士相談(注1)を活用し、成果をあげている。

オンリーワン技術で世界市場に挑む

株式会社メトロール

モノ創りを追求して

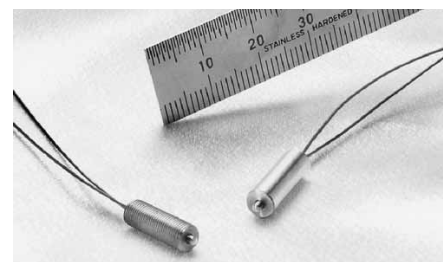
社長であり、専務の父である松橋章氏は、東大工学部を卒業後オリンパス(当時は高千穂光学工業(株))に入社し、カメラの設計生産技術を担当した。その後、(株)東京精密の工場長、事業部長を経て、「世界に通用する製品を作り、技術者が恵まれる会社にしよう」と起業したのは1976年、51歳の時だった。電気式が主流を占めるセンサー業界において、あえて精密技術を要する機械(メカ)式センサー専門メーカーの道を選んだ。

創業して間もなくトヨタ自動車と共同で、自動車製造ライン向けに高精度・高耐久性のセンサーを開発した。次いで開発した「刃物のプリセット用センサ」は、これまで世界17カ国、70社以上、40万台以上のCNC工作機械に搭載された。また、高精度タッチセンサ及び応用製品で30以上の国際特許を有し、95年には科学技術庁長官賞を受賞するなど国内外で技術の高さを評価されている。また、97年に「ISO9001」の認証を受けるなど、品質保証体制の強化を図っている。

他社の真似をしない製品開発

現在最も使われている磁気式、光式センサーの多くが「モノの有無」を感知する非接触型・存在検知型センサーであるのに対し、同社の『タッチセンサ』は位置決めや寸法判別ができる接触型・位置検知型センサーである。前者は材質、表面状態、外部環境により測定精度にばらつきを生じやすいが、後者は材質や外的環境の影響を受けにくいという特徴がある。同社製品は0.5～10 μ mの繰返し精度を誇り、「M5 17mm 1ミクロンの超小型タッチセンサ」、「耐圧300kgのミニセンサ」などを次々に開発し、装置の小型化、性能向上に貢献してきた。

「自動ラインではコンピュータのミスを除けば、「チョコ停(注2)」などのトラブルの8割はセンサーに起因するという話もあります。用途に応じた適切なセンサーを使用することで、信頼性の高いライン構築ができます。センサーにもっと注目し、理解を深めてほしい」と言う。それが次の製品開発につながるからだ。



5mm外形、1 μ mの繰返し精度、
超小形高精度タッチセンサ

目指すは「小さな国際企業」

経営目標は「小さな国際企業」であり、国際市場の開拓に意欲的な取り組みをみせている。昨年も専務自らが先頭に立ち、中国、韓国、台湾、トルコ、ドイツ、米国などの海外の展示会に10回近く出展した。パッケージ化された折りたたみ式展示物を航空便で送り、費用と時間を極力節約する。3時間で設営、1時間で撤去作業という早業が自慢だ。社員手作りのコスチュームや小型ロボットによるデモも好評である。

海外からの受注は主にインターネットを通じて行っている。現在、取引先は64カ国、1400社に及び、海外取引の割合は40%にも達する。次々に入る



海外展示会へ積極的に参加
(2006国際工作機械展・シカゴ)

受注に、TOEIC800点以上のスコアを持つスタッフが流暢な英語で対応し、情報はそのまま生産部門に流される。実にスピーディーで手際がよい。オンラインによる決済もこれまで大きなトラブルはないという。

新社屋のテーマは「一体感」

事業拡大に伴い、2005年に現在の新社屋に移転した。移転に際しては、レイアウト設計、資材調達、引っ越しなど社員が積極的に参加した。社内に入ると事務所と工場が一体となった「大部屋」に驚く。部署ごとのパーティションを廃し、倉庫部分が巨大な吹き抜けとなっているため、大声で叫べば建物全体に聞こえそうだ。優れた動線を生むため四隅に配した階段も秀逸だ。

会議室は簡易なパーティションで仕切られているだけで、「形式的な会議はしません。担当者同士で気軽に声をかけ合い、日常の物事を決めていくのです」とのこと。生産性を高めるには、現場の直接的なコミュニケーションとスピーディーな対応が一番だと言う。社内間のメールも禁止、社長室さえない、徹底した「一体感」を目指す。



一体感あふれる新社屋
(CGによる設計モデル)

「人財」を育てる～人本主義～

社員のIDカードには「CEPS」というロゴが輝く。「CEPS」とは「顧客満足、社員満足、生産性向上、スピード」というコンセプトの頭文字を綴ったものだ。気がつく「E」の文字だけが一際大きい。「E」は Everyone Satisfaction＝社員満足を意味する。顧客へのサービスを向上させるためには社員自身が生き生きし、職場の活気が大切との認識を象徴的に表わすものだ。「社員には『自分の楽器（専門技量）が弾けるように。会社はオーケストラだ』と言っています。日頃から『楽しみながら仕事をしよう！』と呼びかけ、社員もそれに応じてくれています」と松橋専務は満足そうに語る。

人材育成にも積極的で、一昨年から技術系の新卒採用を開始した。目的の一つは「技術伝承」である。また、事務系ではTOEIC高得点者2名を募集したところ88名もの応募があった。採用者は、新卒でも海外インターンシップ派遣、上海やシカゴビジネスショーへの中・長期出張、CADシステムの自宅貸与など、積極的に実践の場に投入するなど「人財」づくりを実践している。

オンリーワン企業、さらなる飛躍へ

この4年間、売上規模は約2倍となり、利益計画も達成することができた。「他社にないオリジナリティの高い製品を作ろう！」という創業理念と技術者魂が同社をニッチトップ(注3)からオンリーワン企業に押し上げる原動力となった。近年、産業用ロボット、医療、半導体などの先端産業の発展を背景にセンサー市場はますます拡大する方向にある。さらに、自動化技術の進展に伴い、センサーの多様化、高精度・高信頼性へのニーズが加速度的に高まることが予想される。

社長は、「これまで30年かけて着実に成長してきました。いたずらに規模を追わずに強い会社になりたい」と堅実路線を掲げるが、成長への準備も着実に進めてきた。今年4月には東京中小企業投資育成(株)から出資を受けることができ、後ろ盾を得たことで、経営及び技術とも従来枠を超える展開が可能となり、これを契機にさらなる飛躍が期待される。



「技術を追求する」社長と
「マーケティング実力派」の専務(右)

(多摩支社 片岡 稔)

(注1) 東京都知的財産総合センター及び各支援室で相談に応じています。また多摩支社では弁理士による専門相談も実施しています。
(注2) 本格的な故障ではなく、一時的なトラブルのために設備が停止したり、空転したりする状態。チョコ停が多いと設備稼働率が低下し、コストに影響する。
(注3) 「すき間(ニッチ)市場」において、国内あるいは世界市場で圧倒的なシェアを誇る企業のこと。

企業名：株式会社メトロール 設立：1976年
代表取締役：松橋 章 資本金：4,000万円 従業員：25名
本社所在地：立川市高松町1丁目100番地
TEL：042-527-3278 FAX：042-528-1442
URL：http://www.metrol.co.jp